

## 映画『 彼らが本気で編むときは、 』

(参加者63人) ※字幕あり

6月23日から29日までの男女共同参画週間に合わせた赤磐市の取り組みとして、映画上映会を開催しました。今回、上映したのは「彼らが本気で編むときは、」。トランスジェンダーを題材とした作品で、主演の生田斗真さんがトランスジェンダー役、その恋人役に桐谷健太さん、2人と生活をする少女役を柿原りんかさんが演じています。

上映会冒頭の開会時に、稲生課長から「第4次赤磐市男女共同参画基本計画」について紹介、参加された方へセクシュアルマイノリティに対する意識啓発を行いました。

(映画の内容については割愛します。)

観覧後のアンケートには、「自分の身近なこととして、より深くLGBTについて考える機会になりました。」や、「実際にLGBTの人が直面するであろう場面が多々あり、改めて生きづらい世の中だと感じた」など、セクシュアルマイノリティに対する理解の促進や深まりが感じられる感想が多くありました。また、「観たい映画だったので観られてよかった。」「気軽に参加できるイベントだったのでよかった。」と上映会に肯定的な意見があった一方で、「若い方にもっと観てもらいたかった」や「男性の参加が少なかったのが残念」という声もありました。今後の啓発活動での題材選びや広報方法の工夫につなげていきたいと思います。



## 『 西日本豪雨災害からの後悔と学び 』

～被災者が伝える大切な人を守るための防災～

講師 榎原 聡美さん (川辺復興プロジェクトあるく 代表)

(参加者 38 人) ※手話通訳あり

平成 30 年西日本豪雨災害被災後の地域のコミュニティ再建のために、「川辺復興プロジェクトあるく」を発足し、代表を務める榎原さんの講演を聞きました。

前半は当時の被害の状況や、自身の避難の様子、コミュニティ再建の道のりについて、写真や映像を交えながらお話していただきました。

一度は聞いたことや見たことのある内容や被害状況でしたが、当事者からお聞きすると、当時の恐怖や混乱する心情、被害の甚大さをより一層痛感させられるようでした。

「娘が一番に避難の情報を入手し、避難の準備を始めていたが、大人は全くそんなことは考えていなかった」ことや、「避難を始めるときに周りの人に何も伝えずに避難をしてしまったことが一番の後悔」という話が印象に残っており、事が起こってから避難を始めるのでは遅い。危ないかとも思ったらすぐに行動を起こす。周りを避難に誘うことはハードルが高いが、避難することだけでも伝えることが大切だということを学びました。

また、コミュニティ再建については、帰ってきてと無責任に言えないから、「帰ってきたくなる、帰ってきてよかった」をコンセプトにしているという部分がとても心に残っており、LINE グループを作ったり、炊き出しをすることで、地域でも結びつきを強め、防災力を高めることが、あるくの発足につながったことを知りました。



後半は、実際の避難についてどのように考え、どのように行動していくかについてのお話でした。榎原さんは夜中に避難をはじめ、その後何度か家に戻ったり、避難所を何か所も回ったり、いろいろ苦労をされたことや、準備が十分にできていなかったこと等の反省をもとに、「防災おやこ手帳」を作成され、マイ避難先や持っていく荷物について、家族でしっかりミーティングをして決めておくことの大切さについてお話しされました。避難のタイミングとしては、子どもの「怖い」が大事な避難スイッチというお

話があり、会場の参加者から「へえー」や「なるほど」と熱心に耳を傾ける姿が見られました。

最後に、川辺地区の防災体制について、黄色いタスキを活用した安否確認訓練について、避難事例を紹介され、災害への備えとして「正しい情報・知識を得るためのつながり」、「災害はきつとくるので、何事も早すぎることはない」、「被災者の声を自分の事のように受け止めて行動をしてほしい」とアドバイスをいただき、講演を締めくくられました。



アンケートからは、「何度話を聞いても防災意識は日常生活の中で忘れてしまいがちなので、それでは命を守れないと実感させられました。」や、「小さい地域ごとに、災害や避難についての話し合いがなされたらいいなと深く感じました。」などの感想をいただきました。



## 『 家庭での整理収納について』

～あなたは「捨てる」と「収納」で失敗していませんか～ 』

講師 佐藤 亮介さん (OFFICE ロハスカタス 代表)

(参加者 38 人) ※手話通訳あり

岡山県初の男性 1 級整理収納アドバイザーで、「整理 ist」として多方面で活動をされている佐藤さんの講演を聞きました。

講演冒頭に整理収納について、「現在の収納ブームではこのように収納するとよいという治療法がクローズアップされている。本当に大事なものは、そうならないための予防をすること。今日は予防法について話をしていくので、

- ① このあとすぐに収納商品の買い物禁止
- ② 言い訳や人のせいにしない
- ③ すぐに始めること。

この3つの約束を守ってください。」というお話しをされました。バッグの中が収納の状態を表していることや財布の中のことなど身近なものを話題として取り上げ、参加者にとって大変分かりやすい内容でした。

サブタイトルにもある「捨てる」と「収納」について、「捨てる」と「収納」は確かに必要なことではあるが、予防のためには後回しにすること、整理整頓・整理収納・片付けそれぞれの言葉の意味、「片付け」とは元に戻すことで、それを習慣化させることが予防になるという説明を聞いたうえで、人は空間を埋めたがるから収納重視で家を建てたり、収納場所や物の準備をしたりすると、失敗してしまうことがある、収納に依存しすぎているという話を聞いた参加者からは、「なるほどー」と共感する声が上がっていました。

後半は整理のために実践することや考え方を中心に講演は進みました。まず、整理の手順として

- ① 厳選する：整理する場所からものを全部出し、「必要なモノ」と「不必要なモノ」に分ける。
- ② モノを活かす手放し方をする：自分には「不必要なモノ」を誰かに譲ったり売ったりする。



(捨てるのではなく、所有者が替わるだけ)ということや、「おもいやり収納」の 3 つの方法について、①すぐに見つかる ②すぐに取り出せる ③すぐに後片付けしやすい、ということ、後片付けの習慣は、「あえて面倒くさいことを先に済ませておく」・「ラベリングや定位置管理」について説明され、さらに先生が実際に使われている透明バッグを出し、見える化収納の写真を提示しながらのお話を聞いて参加者から「これなら分かりやすい」といった声が上がっていました。

最後に、「自分のカバンの中からも実践してみてください。予防をすること、「増やす」行為を「減らす」ことが大切です。」という言葉で締めくくられました。

参加者からは、「モノを大切にしているからこそその整理収納の話でとても共感でき、納得しました。」や、「できることから行動に移して、すっきりした生活をしたい。」等、参加者の皆様から大変好評をいただきました。

『 人と人との繋がり方～対人トラブルの予防に向けて～ 』

講師 小畑 千晴さん (岡山県立大学 保健福祉学部 准教授)

(参加者27人) ※手話通訳あり

岡山県立大学准教授であり、これまで女性相談所やスクールカウンセラーとして、女性や子どもたちの相談活動を行ってこられた小畑さんの講演を聞きました。

講演冒頭に本講演の目的として、「人の心の捉え方に関する枠組みの提供」と述べられ、こころの悩みは人と人とのつながりから生まれるというお話からスタートしました。

講演前半は、まず、内容の核となる「原子価論」とは、個人の『こころ』『性格』『病理』を繋がりから捉えようとする理論で、人との繋がりを形成する手段である「原子価」には、4種類の繋がり方

- ①依存 (D) 相互依存による繋がり
- ②闘争 (F) 競い合うことによる繋がり
- ③つがい (P) 相互親密による繋がり
- ④逃避 (FI) 距離を置く繋がり

があり、人それぞれに人と繋がるときに得意な手(活動的原子価)とそれ以外(補助的原子価)を持つというお話がありました。その話を踏まえて、自分の活動的原子価が4種類の原子価のどれに該当するかを知るためのテストが行われました。原子価の説明を受けているときは、専門用語や難しそうな内容にやや受け身だった受講者も、テストのときは自分がどの種類になるのか、ワクワクしながら積極的に取り組まれていました。テストで分かった自分の種類の特徴がテスト用紙に記載しており、「確かに当てはまる」「これはちょっと違うかな」と結果への反応もさまざまでした。(ちなみに日本人は、4割が依存、3割がつがい、2割が闘争、1割が逃避に分類されるそうです。)



後半は、4種類の繋がり方の特徴の詳しい説明から始まりました。それぞれのポジティブな面とネガティブな面を詳しい場面を用いて説明し、さらに各種類に該当する人物や職業を引き合いに出



すことで、受講者の理解や納得を引き出していました。また、活動的原子価しか持っていない人の病理的(マイナス)繋がりについては、その特徴のために、様々な対人関係におけるトラブル(ハラスメント、DV、ストーカー、虐待等)につながっていることがあることを説明されていました。

最後に、各タイプによって行動の目的が異なること、マイナスの繋がりであることを本人が自覚することが難しいこと、そのため周囲がそれを理解し対応していくことが大切であるとまとめ、最後に事例の紹介を

され、講演が終了しました。

参加者からは、「自分を客観的に見る目を養い、他人のタイプを研究し、どのようにつながればよいかを考えることが大切だと思えた。」や、「人によって色々なタイプがあることを知ることができ、今後の対人関係に役に立った。」という感想をいただきました。

# 女性に対する暴力をなくす運動×児童虐待防止推進月間

～協働推進課＋子育て支援課の取組～



男女共同参画社会の啓発に向けて、内閣府は 11 月 12 日から 25 日を「女性に対する暴力をなくす運動」期間と定めています。また、厚生労働省は、児童虐待防止の啓発として、11 月を「児童虐待防止推進月間」と定めています。

この期間を一つの機会ととらえ、男女共同参画社会の実現や、女性や子どもに対する暴力の根絶について、意識啓発を促すため、赤磐市でも啓発を行っています。



パープルリボン…女性に対する暴力根絶のシンボル

オレンジリボン…児童虐待防止のシンボル

○広報あかいわへの掲載 ※3月号へも掲載予定

コラム 人権コラム (第71回) / 協働推進課

**6月23日から29日は男女共同参画週間  
「あなたらしい」を築く、「あなたらしい」社会へ**

性別にかかわらずなく、人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合う、男女共同参画社会の形成に向け、6月23日から29日までに「男女共同参画週間」としています。

地域においても社会においても、男女の多様な考え方を生かし、自らの意思により個性と能力を発揮できる活力あふれる社会をつくりましょう。

**配偶者・パートナーからの暴力で悩んでいませんか？**

配偶者・パートナーからの暴力(DV…ドメスティック・バイオレンス)に関する相談件数は年々増加しています。DVは犯罪となる行為です。1人で悩まず、まずはご相談ください。

〈身近な相談窓口〉

◆配偶者暴力相談支援センター  
・岡山県女性相談所

☎086(235)6060

月曜日～金曜日

午前9時～午後4時30分

・岡山県男女共同参画推進センター(ウィズセンター)

☎086(235)3310

火曜日～土曜日

午前9時30分～午後4時30分

◆DV相談＋(プラス)

☎0120(279)8889

24時間受付

◆DV休日電話相談

・社会福祉法人クムレ

☎086(441)18999

日曜・祝日・年末年始

午前9時30分～午後4時30分

◆男性相談員による男性のための電話相談

・岡山県男女共同参画推進センター(ウィズセンター)

☎086(221)1270

毎月第2金曜日

午後5時～8時

※各警察署でも相談を受け付けています。緊急時は110番へ。

(令和4年6月号)



## 男女共同参画の視点からの災害対応

未曾有の被害をもたらした2011年の東日本大震災から10年以上が経過しました。発災直後の避難者は約47万人にのぼり、その中には避難所生活を余儀なくされた人も少なくありません。そうした中、「女性用の物資が不足した」、「女性用の物資が届いても、男性が配布しているから、もらいに行きづらい」、「授乳や着替えをするための場所がなかった」、「女性だからということで、当然のように炊き出しの仕事を割り振られた」など、物資の備蓄・提供や避難所の運営について女性の視点を取り入れられていないことから生じる、さまざまな問題が顕在化しました。赤磐市では、防災会議における女性委員の割合を高めることや地域防災計画の作成、修正時には、男女共同参画の視点を反映するよう取り組みを進めています。

（第4次赤磐市男女共同参画基本計画より抜粋）

### <数値目標>

目 標 項 目	現状 (令和2年度)	目標 (令和8年度)
女性の消防団員数	18人	30人
女性防火クラブ員数	180人	200人
防災会議の女性委員の登用率	6.7%	30%



（令和4年9月号）

## 性的マイノリティの人に対する理解を深めよう

LGBTQとは、Lesbian（レズビアン、女性同性愛者）、Gay（ゲイ、男性同性愛者）、Bisexual（バイセクシュアル、両性愛者）、Transgender（トランスジェンダー、性自認が出生時に割り当てられた性別とは異なる人）、Questioning（クエスチョニング、自らの性のあり方について、特定の枠に属さない人、わからない人など）の頭文字をとった言葉で、性的マイノリティ（性的少数者）を表す総称の一つとしても使われることがあります。また、近年では、LGBTQに代わり、SOGという言葉で表現されることも増えてきています。SOGとは、性的指向（sexual orientation）や性自認（gender identity）の頭文字をとった略称です。SOGは、特定の性的指向や性自認の人のみが持つものではなく、すべての人が持つものです。性的マイノリティの問題を特定の人にのみ配慮が必要な課題として捉えるのではなく、すべての人の対等・平等、人権の尊重に根ざした課題として捉えるべきであるという、国際的潮流に則った大きな考え方があります。

（第4次赤磐市男女共同参画基本計画より抜粋）

### <数値目標>

目 標 項 目	現状 (令和2年度)	目標 (令和8年度)
性的マイノリティという言葉を知っている」と回答した人の割合	76.5%	80%
国際交流・国際理解のイベント・講座など参加者数	139人/年 (令和元年度)	200人/年

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年度の国際交流・国際理解のイベント・講座などをすべて中止したため、令和元年度の実績値を記載。



LGBTの象徴とされる  
虹色の旗  
「レインボーフラッグ」

（令和4年12月号）